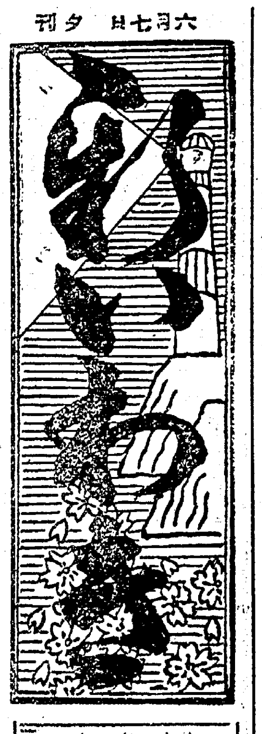


六月七日 夕刊

日刊(但シ日曜祭日ノ翌日休刊) 一ヶ月廿五錢 郵稅十五錢 一部二錢 廣告料一行四十錢 場所指定二十錢增 發行兼編輯印刷人 中谷政次 發行所 福島縣平市大町二三 新いわき新聞社

常識講座

クー・クルックス・クランとはアメリカの秘密結社の謂だ、白人優越主義を唱へて黒人やユダヤ人に迫害を加ふるもの近來それが在アメリカの日本人にも及ぶと云かを聞かされる

公會堂寄附壹萬圓
昨六日までの集まつた額

平市公會堂建築委員によつて募集中である同建築費の寄附成績は引續いて異常な特志を迎ひ昨六日までに一萬圓を突破したが其の後の寄附者の氏名を上ぐれば左の如くである

▲才槌小路志賀亥之松 田町廣瀬酒店 二丁目田中はな 南町青木秀次 鈴木彌太郎 大町山野邊陽 一丁目白土七太郎 大工町會澤長資 石井重太郎 二丁目伊関房次 五丁目小野榮一 石川さく 田町大橋秀多 酒井温夫 大河原るい 室橋玉吉 四丁目根本武雄 五丁目瀧口豊 研町屋島康輔 紺屋町市原隆介 西脇健次郎 五丁目植村喜一 遠藤淺香 研町北川鶴吉 田町猪狩四郎 立町木村淳 佐藤榮吉 小野寺金雄 安孫子才三郎 鎌田白土德彌 五丁目星野備治 鍛冶町四家久米治 八幡小路鍋田三重 胡摩澤赤塚勇吉 高橋よし 一丁目關原新一郎 二丁目大村一郎 三丁目佐川八郎 十五丁目森貞一 五丁目熊谷元孝 三丁目住川三郎 北村辰藏 胡摩澤田網申藏 三丁目鈴木義忠 五丁目星野要造(以上)

本縣警察官の異動
部長及び巡查三十名

縣下警察官の異動は今七日發表されたが今回の異動は巡查部長及び巡查をもつて總數三十名を算し内平署關係の分は左記の如くである

特高部長刑事鈴木恒雄…郡山へ…郡山から矢野七郎部長…平へ▲ガソリン係巡查佐藤今朝雄…縣警務課へ▲衛生内勤藤本警巡查…中村へ▲刑事係室井誠吾巡查…猪苗代へ…本宮小山田勝之亟巡查…平へ▲三春から長谷川末吉、福島から石川勘次郎、中村から相樂武雄各巡查…平署へ

以上の内長谷川、石川、相樂三巡查の擔任は着任の上決定される筈

平署管下駐在巡查の異動

また平署管下駐在巡查は昨六日付で左記の如く異動した

▲平窪駐在加藤次雄巡查…磐崎へ▲磐崎根本磯松巡查…入山八仙へ▲入山八仙庄司富太郎巡查…小名濱漁業詰願へ▲小名濱詰願鈴木繁次巡查…依願退職▲夏井本田政雄巡查…小名濱日曹詰願へ▲赤井村高萩佐々木忠次郎巡查…平窪へ(以上)

老の身に赤誠

石城郡大浦村の大森字八堀猪狩むめ(六三)さんは金百三十圓また同村の鹽木字家の内佐藤音次郎(七六)さんは金五圓を何れも恤兵献金方村役場に寄託した

百圓寄附の念願に三十有余年の精進
平市の小學校基本金へ

平市元田町に居住せる加藤木直親氏は目下樺太大泊町山下町に在りて家運を上げてゐるが同氏が去る明治四十四年當時の平町居住中に於て小學校基本金百圓を寄附すべく念願を立て同年七月から毎月または隔月に金五十錢づゝの寄附を同町を離れながら累年これを續け最近までに其の額百十七圓に達したので奇特な行爲に對し近く菅沼市長から感謝狀を贈ることになつた

阿康商店の寄附

平市古鍛冶町阿部康雄氏は商品賣上げの利益の中から金一圓四錢を市の軍事後援會へ同じく一圓四錢を公會堂建築費の中へ今七日寄附された

小學生勤勞献金

平市第四小學校高等二年生松崎久雄君外二名は學校から歸宅後勤勞によつて得たる金五十錢を恤兵献金方市役所に寄託する

戰線から寄附
玉川村の勇士

石城郡玉川村の島出身鈴木正平君は目下北支戰線で活躍中だが此の程戰地から金二十圓を實家へ送り青年學校及び銃後會へ各五圓、鄕里の部落や國防婦人會等へ各三圓を寄附されたので關係者から感激されてゐる

磐中生一同から散髮料を恤兵へ

縣立磐城中學生が自家理髮による料金節約で得たる金十圓を淺水校長の名で恤兵金に献金方今七日市役所に寄記した

豊間村長選擧
讓らぬ兩派
來る十日再會

石城郡豊間村では鈴木村長の墜死による後任選擧につき去る四日村會を開いたが山野邊助役の昇格派と遠藤漁業組合長を推さうとする兩派が互に說を曲げず散會したが來る十日頃重ねて招集する村會に於て何れとも決定する模樣であると

小名濱港務所設計
内務省築港事務所の改造

小名濱商港を引繼がれた縣では岩壁側に建つ港務所の假事務所を目下設計中であるが同假廳舍は内務省の築港事務所を改造するもので僅々二十四坪餘のものに過ぎないが隨て本廳舍の前程である同所の敷地は約四百坪で同所の管掌事務は港の維持修理、岩壁使用料、港灣水面の使用その他船舶の出入等他日水上署と相まつ諸般の事務に當るもの々如く假事務所は來る七月末頃出來上る豫定であると

平市五月中の文書受發數
五千三百十三

平市役所に於ける去る五月中の文書收受及び發送數は合せて五三一三に達してゐるが受に於て多いものは財務、發送に於て多きは兵事方面で各課別を上ぐれば左記の如し

庶務受一三一(發二六二)學務三五九(一〇一)工務一三〇(七三)社會一六二(一五〇)産業二八四(五七八)戸籍三八四(五二五)兵事二〇五(六六一)財務六三四(三九)職紹三一九(三一五)以上括弧内は發送

濱三郡農會の苗代品評
第三次審査

濱三郡農會聯合主催の苗代品評會第三次審査は審査長縣農務課古賀技師により相馬、双葉の二郡を終つてゐるが來る八日、九日の兩日右審査長石城に出張該審査を行はれると

川部の苗代品評

石城郡川部村の苗代品評會は來る十日郡農會の柴田技手及び吉成郡駐在技手出張審査を行ふと

永戸澤渡の田植

石城郡の山間部落永戸、澤渡方部の田植えは來る十日指導地に於けるものを行はれるがこれに準じて同地方一般も田植えを開始すると

四倉護岸の災害
復舊竣功

石城郡四倉町海岸陸堤約三十間昨年の災害で破壞され町村補助復舊工事施行中であつたが此の程竣功し近く竣功檢查がある筈

石川湯本町長

石城郡湯本町長石川德壽氏が一昨五日朝突然腦溢血を起し自宅に於て靜養中なるも重態であることは昨報したが經過思はしからず近親に護られる中に於て昨六日午後八時四十分遂に不歸の客となつた同氏は中等校卒業後稅務官吏となり歸町後精米業を營み同町會議員二期、縣議一期、昭和七年七月二日町長に推されて十一年の改選にも引續いて再選今日に及んだ殊に同町自治の功勞者で出で湯の町を復活すべく探湯斜坑堀鑿なども同氏によつて計畫され未だ完成を見ざる事業等その他ます〳〵氏の力にまつものが多かつた折柄一層その死を惜まれてゐる行年五十七才、葬儀は明八日午後三時自宅出棺を以て營まれると

家庭不和で縊死

石城郡内鄕村の白水居住炭鑛坑夫川崎金藏(六三)は家庭の不和を氣にしてゐたが去る二日夜自宅に於て此の世の名殘りに酒一升を飲み同地字廣畑地内村道脇の立木に縊死を遂げてゐたのを當夜同村浪華炭鑛に起つた一家鏖殺の爆破事件に馳つけた警官隊が發見し檢視の上死体家人に引渡す

小娘の無斷家出

小名濱町の本郷忠喜長女武藤つね(一四)は去る四月二十二日無斷家出近親の搜索中であるが最近平市内で見受けたものがあるとの風聞に實父から搜索方を願出た

坑夫の落盤即死

石城郡内鄕村の宮戸部炭鑛採炭夫古川五助(三五)は昨六日午前十時頃同礦第二坑内に於て採炭作業中落盤にあつて即死をなす

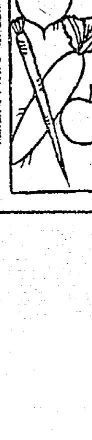
妻子置去の家出

茨城縣西茨城郡東町加倉井正六(三五)は去る五月二十四日妻子を置き去りにして家出したが石城地方の炭鑛に居るらしいと父親から搜索方を願出る

戰地の便 在ゆる困苦欠乏に耐え敵陣最先突破
【上】 平市立町出身 齋藤虎一

謹啓、鳥歌ひ花笑ふの好期皆々樣には益々御清榮の段奉賀候、私儀皆々樣の熱誠溢るゝ歡呼聲裡に一死報國を誓ひ故國を後に征途に上りてより既に七ケ月その間激甚なる戰鬪、不眠不休の行軍或は多忙なる軍務に取まぎれ御無沙汰致し誠に失禮申候、既に御承知の通り我軍は上海上陸直ちに最も堅固なる敵陣地帶の攻擊に參加し猛攻また突擊遂に大場の險を落し上海を占領し續いて敵の總退却に移るや全軍に先んじて猛追擊を即時開始し折からの秋雨に道路は泥濘と化し馬脚を沒する惡路を征しあらゆる困苦欠乏に堪え呉福敵陣地を最つ先に突破し支那隨一の大要塞江陰砲台も二日にして攻略し以て海軍の揚子江作戰を自由ならしめ鎭江よりは大揚子江を歴史的敵前渡河の敢行を爲し遠く除縣を突き津浦線を占領し首都南京の占領を完成いたし候、一月下旬淮陽作戰の命下るや全員勇躍出動し降り來る吹雪の中、橋なき溪流を渡り、道なき山谷を過ぎ晝夜敢行の强行軍を連日續行し多年侮日を唱ひ居る敵軍を擊破し、抗日を叫び良民を苦しめゐる匪賊を掃蕩し二月中旬こゝに全く淮陽小野を平定し完遂の警備に服し居り候、

青果市況
平中央青果市場調 (單位)



	高値	安値
玉葱(貫)	三五〇	三〇〇
京菜(百把)	五〇〇	三〇〇
玉菜(貫)	〇八〇	〇五〇
カブ(十把)	〇五〇	〇三〇
筍(貫)	四〇〇	三五〇
馬鈴薯(貫)	三五〇	一五〇
蓬蓮草(百把)	一、二〇〇	一、〇〇〇
三寸豆(貫)	四五〇	三五〇
葉玉葱(十把)	一五〇	〇八〇
大根(十本)	一五〇	一〇〇

御誂むも既製品も 高島屋洋服店 平三町 電三八六

農業

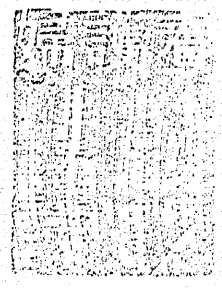
陸苗代で 水稲育成(二)

岩手縣農業研究甘年の結晶

(4)木枠と障子、木枠は各好みに應じて作られるとするも長さ一尺乃至二尺、幅六尺、後部の枠の高さは一尺乃至一尺二寸、前部は四寸とする、簡易陸苗代は醸熱材料を使用せざるため日光力で芽を出させるを以て枠の前を低くして早くは光に當て均一にすること、障子は一と坪に二枚となし長さ六尺三寸、幅三尺とし竪横はなるべく細く厚さ二分五厘ぐらゐにて十二本乃至十四本ぐらゐを適當とし横横は八分に一寸二分、上下中ともにて六本かも本にて縦横も八分に一寸二分にて充分なること(注意、竪横に横横とが不足なときは破損し易く且つ苗の植が多くても被育に大差はない)障子紙にレンヨー紙が最も成績良好である、レンヨー紙には裏地向きと表地向きとの二種があるから裏地向きには多々高いものでも其れを使用すること、

(5)床土、床土げは充分に腐熟せしめたる堆肥を三、畑地の肥土を七ぐらゐの又は腐土などとよく混合するやう注意すること、これは前年の夏秋トおいて作つて置くことが最もよい、

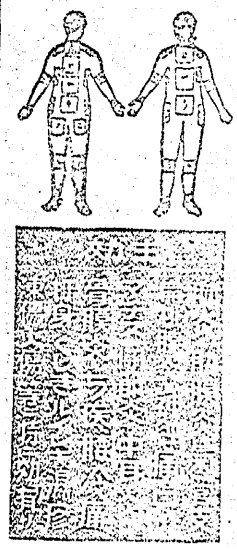
(6)肥料、床土げの終つた後、二つ坪當りに硫酸アンモニヤ五十匁、過燐酸石灰三十匁を混交して撒布する

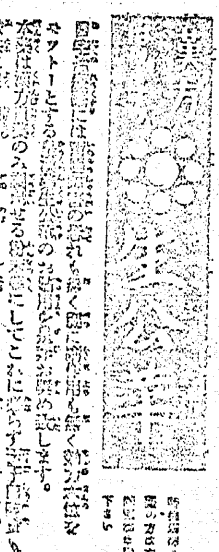


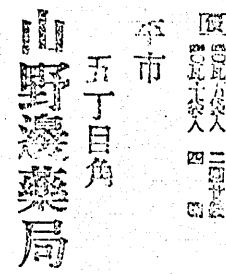
自慢の品良餐も豚も牛も

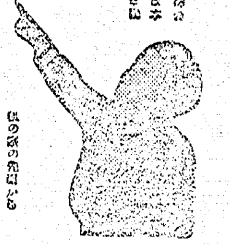
平市 町田 屋

御肉の用命は







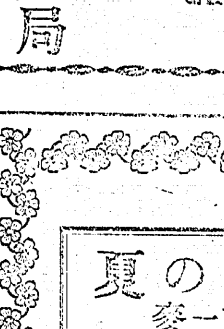


産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
薬局 薬劑師 大岩俊雄
平市新川町九一
入院隨意
病室完備
木村病院
電話一六九番

根本産婦人科醫院
平市南町
根本荘次郎
根本貞雄
(入院隨時)
電話三四番

「看護見習募集」
関東電眼科醫院(電話六六九番)
平田町(三丁目裏川岸通)
入院隨意(自炊の便あり)

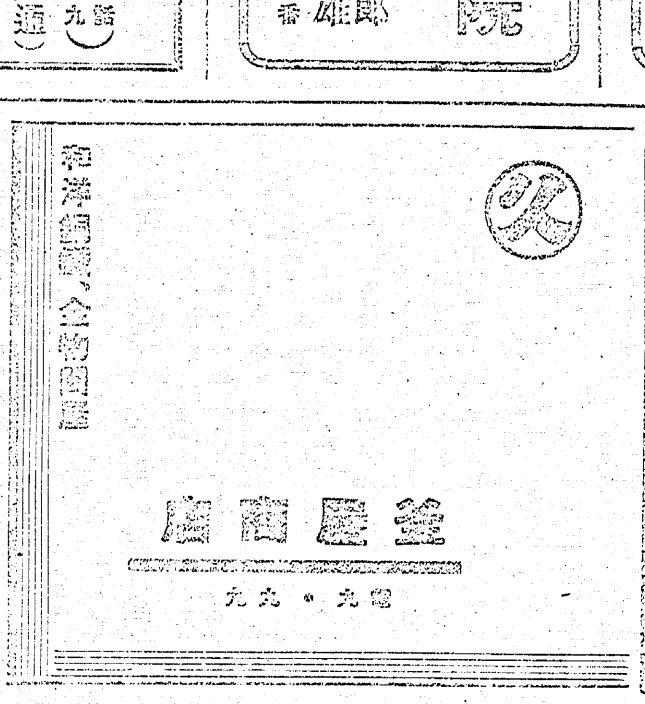
大河内
整形外科醫院
平市搦摺小路
電話五八八番

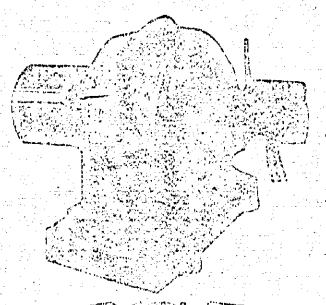


夏の帽子
麥一文字と子供帽

パラソル
二重張と晴雨兼用傘

ヒロセ
平電一四〇番

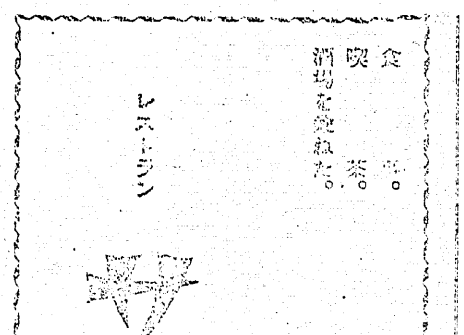




ゴム印 鍵屋 販賣、修理
合資會社
佐藤鉄工所
平市月見町
(電話三六二番)

今般開院長として高橋俊幸氏を招聘し「内臓外科・一般外科・皮膚泌尿器科」の診療に從事せしむ
平病院
(平市元共樽病院跡)
(電話六四一番)
院主 院長 特準博士 鈴木定藏

内科 部長 鈴木定藏
小兒科 部長 佐藤幾安司
内臓外科 皮膚泌尿器科 院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科 部長 鈴木定藏
古川元雄
薬劑科 部長 吉木孝平
診療時間 午前八時より午後九時まで(急患は此の限にあらず)



食堂 喫茶 酒場を設けた。
平。
茶。

レストラン サロン

平田町 電三五二

一般印刷物も格別安く致します
新いわき新聞社